<table>
<tr><td colspan="7">会　議　報　告　書</td></tr>
<tr><td>会　議　名</td><td colspan="6">第３回草津市あんしんいきいきプラン委員会記録</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="6">平成３１年２月２７日（水）１４：００～１６：００</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td colspan="6">草津市役所　８階大会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="12">委　　員</td><td>役　職</td><td>氏　　名</td><td>出欠</td><td>役　職</td><td>氏　　名</td><td>出欠</td></tr>
<tr><td>委員長</td><td>佐藤 卓利</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>毛利 由美子</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>副委員長</td><td>谷 勝久</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>岡本 庄司</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>鈴木 孝世</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>田渕 稔子</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>山本 博一</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>中村 しづ子</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>井口 正子</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>斉藤 洋子</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>中島 大輔</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>山本 進</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>矢野 実千代</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>荒森 紀子</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>治村 卓也</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>中村 年夫</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>新村 真喜子</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>奥村　弘</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>水永 美保子</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>吉岡 孝治</td><td>出席</td></tr>
<tr><td rowspan="4">事　務　局</td><td colspan="6">健康福祉部：西部長、溝口理事、小川副部長</td></tr>
<tr><td colspan="6">長寿いきがい課：松永課長、西山課長補佐、橋本係長、村上副係長、岡村主査、岩瀬主査</td></tr>
<tr><td colspan="6">介護保険課：久泉課長、小寺課長補佐、相井課長補佐</td></tr>
<tr><td colspan="6">地域保健課：太田課長、江南課長補佐</td></tr>
<tr><td>記録作成者</td><td colspan="6">長寿いきがい課　村上</td></tr>
<tr><td>そ　の　他</td><td colspan="6">傍聴者　２名</td></tr>
</table>

１．開会

【委員 20 名中 20 名の出席をいただき、事務局より開会を宣言】

２．議事

（１）草津あんしんいきいきプラン第７期計画の進捗について

～介護保険事業費について～

○事務局　【資料１に基づき説明】

○委員長　介護サービスの状況について、実績値は月平均での数値とのことであるが、何月から何月までの実績をもとにしているのか。

○事務局　平成 30 年４月（５月審査分）から 11 月（12 月審査分）までの利用実績をもとに算出している。

○委員　資料１の９ページ、平成 30 年度７月審査分について、他の月と比べて利用者が多いことには理由があるのか。

○事務局　本市では、平成 29 年度から総合事業を開始しているが、１年間は移行期間であったため、平成 30 年度５月審査分（４月利用分）からが総合事業に完全移行した後の実績となる。しかしながら、完全移行時において、一部事業所からの請求がコード誤り等の理由により返戻処理され、これを平成 30 年度７月審査分として再度請求されたことに伴い、一時的にのべ利用者が増加したものである。

（２）介護予防・地域づくりを進めるために　～生活支援体制整備事業について～

○事務局　【資料２に基づき説明】

○委員長　現在、草津市では、第２層協議体として各小学校区で「学区の医療福祉を考える会議」を開催しているところであるが、当委員会で生活支援体制整備事業における協議体や生活支援コーディネーターについて、具体的に話をするのは初めてかと思う。

委員の中でも、この第２層協議体についてご存知の方、関わっておられる方もいらっしゃれば、初めてお聞きになった方もいらっしゃるかと思う。

私は、昨年度、町内会長をしていたことから、住んでいる地域の「学区の医療福祉を考

える会議」（第２層協議体）に参加した経験がある。構成メンバーは、学区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、まちづくり協議会、町内会長、地域で開業されている医師、歯科医師、介護サービス事業所の方たちだった。

「学区の医療福祉を考える会議」は、市内の小学校区でそれぞれ開催することになるのだが、資料２の 10 ページ以降にもあるとおり、何年も前から開催し、十数回の開催回数も数える学区もあれば、まだ未開催の学区もあり、地域ごとに進捗状況にばらつきがある。

ついては、こうした前提を踏まえて、「学区の医療福祉を考える会議」に参加されている委員からも各学区の状況を紹介していただきたい。

○委員　私は訪問看護事業所として、笠縫東学区と常盤学区の「学区の医療福祉を考える会議」に参加させていただいている。それぞれの学区の特性がある中で、「地域の高齢者を今後どのように地域の中で見守っていくか」、「今あるつながりを上手く利用していくことで自分たちは何が出来るか」、「どのように動けるか」などを話し合っているところであり、非常に良い話し合いが出来ていると感じている。地域の方が自分たちの地域を考える良いきっかけになっているのではないかと思う。

○委員　「学区の医療福祉を考える会議」を今後どのように地域へ広めていくかが重要である。私は、介護予防や助け合いの考え方を広めていくためには、地域サロンの活性化が必要不可欠であると考えているが、地域サロンの参加者も担い手も高齢化に伴い減少傾向にある。こうした中、地域サロンも見直しの時期にきているのではないかと思う。地域サロンにも様々な形態があり、立ち寄りやすいカフェ形式の地域サロンが求められている現状もある。

地域サロンの見直しについて検討し、より一層の介護予防を進めていくべきだと考える。

○副委員長　私は「矢倉学区の医療福祉を考える会議」に計９回参加させていただいた。誰もがいずれは高齢者になり、病気にもかかると思うが、この会議では、「元気で長生きするためにどうしたら良いか」ということを第一に考え、話し合いを進めている。

私の住んでいる地域では、24 か所で地域サロンを開催しているが、家に閉じこもったままで参加されない方がいる。その人たちをどのように地域サロンに来ていただくかということを考えているが、まずはお互いが触れ合える場所づくりが大事ではないかと思う。

また、自宅から遠いところではなく、近くに地域サロンを作る必要があるし、散歩の際に気軽に寄れてお話ができる場も必要である。

こうした中、矢倉学区ではふれあい喫茶「憩」を広げていきたいと考えており、一人でも参加者が増えるような場所づくりを進めていきたい。

○委員　現在、地域サロンは上手くいっているところもあるが、次の段階が大変ではないか。現在、老人クラブも市全体で約 3,000 人の会員がいるが、60 歳から 70 歳までの方が加入してくれない状況がある。何か会合等を行うにしても 70 歳以上の方に協力いただき、なんとか運営ができている状況である。60 歳代の方に老人クラブの加入を勧めても、まだ会社勤めをされている方や、自分の趣味をしていきたいと言われる方がいる。

地域サロンも同様で、お世話役の方の年齢も段々と上がってきており、今後、次世代の方にどのように協力してもらうか、協力者をどのように発掘していくかが課題であると感じる。

○委員長　地域には、老人クラブや地域サロンなどで活動されている方もいらっしゃるが、小学校区ごとに活動されている団体や個人がもっと多くいらっしゃるはずである。第２層協議体は、そういった方たちに参画いただき、「地域の課題について自分は何ができるか」、ということを話し合う場というのが基本的なコンセプトであると考える。

私が「学区の医療福祉を考える会議」に参加した感想としては、お互いが地域で暮らし、活動しているが、お互いのことをよく知らないということを感じた。お互いのことを知らない中で集まって課題について話し合おうとしても進まない。

まずは、お互いのことをよく知ることから始める必要があり、第２層協議体が軌道に乗り出すには２年くらい要するのではないかと思う。

第１層協議体は、第２層協議体での議論を包括する場であると考えており、これは私の個人的な提案であるが、委員の皆さんは一番入りやすい、行きやすい「学区の医療福祉を考える会議」に参加されてはどうか。まずは実際に参加され、そこでどのような議論がされているのかを実感することが必要だと思う。第２層協議体では、それぞれ地域の特性があると思うので、その上で、第１層協議体としてどのように審議していくかということを考えていくべきであると考える。

また、市では、それぞれ担当者を決め、第２層協議体へ参画していると思うが、先ほどの資料の説明に加えて、現状について説明することはあるか。

〇事務局　「学区の医療福祉を考える会議」については、立ち上がった年度も様々であるが、当初の基本的なコンセプトとしては、地域の中での高齢者の日々の問題を皆で共有し、解決には至らないかもしれないが、それぞれの参加している立場、団体でどういうことを考えていけるか、というものであった。

こうしたコンセプトで話し合いを進めてきた中、介護保険制度の改正により、生活支援体制整備事業の実施が位置付けられ、本市においては平成 29 年度から第２層協議体として位置づけて取組みを進めているところであり、地域の中で生活支援や助け合いなどの必要性について考えていく役割を持たせていきたいと考えている。

学区ごとの進捗状況については、資料のとおりであるが、先ほどの委員の意見にもあったように担い手不足にかかる課題については、どの学区でも共通の意見としてあがってき

ているところであり、多くの方とこうした課題について話し合うことで、解決に向けた取組みを進めていきたい。

　また、先ほど委員長から提案もあったが、「学区の医療福祉を考える会議」を覗いてみたいと思われた委員は、地域保健課まで連絡いただければと思う。

○委員　山田学区には、「ハナミズキ」というボランティアグループが生活支援を提供されている。生活支援の内容としては、ごみ出しや植木の剪定、家の中の掃除などであり、こうした生活支援を必要とされている方とのマッチングは民生委員が行っている。

　また、認知症についても話し合っているが、軽度の認知症状というのが分かりにくい。認知症については、家族も隠さないでほしいし、こうした方たちに地域で気づき、支えていければと考えている。年齢を問わずに大人も子どもも高齢者もお互いが支え合っていければ良いと考える。

　先日、第 15 回目の記念会議として、特別養護老人ホームえんゆうの郷をお借りし、地域の皆さんと一緒に大根炊きを行い、交流を深めた。

　今後については、地域に誰もが立ち寄れるカフェがあれば良いのではないかと考えている。

○委員長　玉川学区では、医療関係者として地域で開業されている先生がお越しになっており、自身の地域医療に対する思いなどを話されていた。普段、医療関係者と地域でお話する機会はないので貴重な経験になった。逆に、医療関係者が普段地域に対して行っている活動等について伝えることのできる良い場になっているのではないかと感じた。

○委員　先日、厚生労働省が日本の医師の偏在数についての発表を行った。10 万人あたりの医師の数の順位であるが、上位は東京、京都と続き、滋賀県はかなり下位であった。

しかし、これを大津・湖南地域だけでみると６位になり、このあたりの地域は「石を投げれば医師にあたる」と言われるほど医師が多くいる。このことから、ボランティア志向のある医師も私を含め多くおり、こうした医師たちを無償で来てもらうということが可能な時代になってきているのだと思う。

上手く医師会や基幹病院に話を持っていければ地域サロンに対する出前講座などが可能であると考える。

また、生活支援体制整備事業のコンセプトは大変素晴らしいと思うが、この事業を進めていくことは非常に難しいと感じる。委員の皆さんの多くもこうした事業にキーパーソンとして参画され、積極的に活動をされており、地域で暮らす住民としては非の打ちどころがなく、優等生と言える。しかしながら、人の社会は優等生ばかりで成り立っているわけではない。中には、参加したいが仕事の都合等で参加できないという方もいらっしゃるかと思うが、かなりの方が無関心層である。第２層協議体の参画団体は学区社会福祉協議会、老人クラブ、民生委員児童委員協議会等と高齢者かつ意識の高い方たちが中心になっているので、世代をつなぐということが非常に難しいのだと思う。

こうした中、どうしたら良いかであるが、昨今、社会医療法人といった制度ができたことやスポーツクラブがかなり地域にはある。また、健康用具を販売しているお店や健康ランドと称して入浴施設を備えているところもある。そういった事業者に声を掛け、協賛してもらうことができれば至る所に地域サロンができるのではないか。例えば、イオンモールは健康に関して非常に良いアンテナを持たれており、数年前に広場を無料でお借りし、癌の啓発活動をさせていただいた。

こういった会議をすると、「行きたい人」＝「来なくても良い人」しか来ないのが現状である。私たちがやらないといけないことは、なかなか来ない人を引っ張り出すことだと思う。このように視点を変えて取り組んでいくことも必要ではないかと思う。

先ほど、山田学区での取組みの話があったが、特別養護老人ホームえんゆうの郷は私も

所属している法人グループであり、法人の中でも学区にカフェが必要ではないかという話は挙がっている。今後、介護の需要が急増する時代になっていく中、草津総合病院では、健康増進ということを目標に据えて、「フレイル」の状態になるまでを長くするために、企業と共同して研究を進めているところである。これまでのように、社会福祉協議会ありき、老人クラブありきでは世界が広がらないし、視点を変えてやっていくことも必要ではないか。

○委員　元気な高齢者の方は歯の丈夫な方が多い。歯が丈夫、かつしっかり噛まれている方、あるいは不幸にも歯が欠損されている方であっても、自分に合った入れ歯を使用されている方は、地域サロンにも出かけておられるし、旅行にも行かれており、口の中も元気な状態である。

人間の最期まで残る欲は食欲であるが、これには噛むこと、嚥下することが必要となり、そのためには口の中のケアが重要になる。

皆さんもご承知のとおり、滋賀県は平均寿命が全国的と比べても高い。これを保っていこうとするのであれば、口の中のケアをしていくことも大事になる。

草津市では節目検診という事業を実施しているが、受診率があまりよくない。70 歳の方はそこそこ来られるが、40 歳、50 歳の方の受診率は低い状況であり、歯科医としては、口の中の健康も保っていきたいと考えている。

○委員長　このように、医療関係者から第２層協議体で話をしてもらうことで、地域住民は健康づくりやフレイル予防に対する意識が変わるのではないかと思う。
今後の取組みとして検討いただければと思う。

○委員　高齢者福祉に携わる介護サービス事業所も含め、世代の交流について検討する必

要がある。この委員会もそうだが、参加している者としていない者で大きく知識に差があり、また関心のある者と関心のない者でも同様に差がある。私も自身が所属している法人の中で若い世代と話す機会があるが、制度のことについても聞いたことはあるが内容についてはよく知らない者と言う者がおり、後継者を育てる必要性を感じている。

あらかじめこうした会議や内容について知っておいてもらう必要があると考えるが、若い世代に伝えるためには、ＩＣＴを活用した働きかけなどの検討できるのではないか。「聞いたことがある」、というだけでも大きな一歩になるのではないか。

極論にはなるが、YouTube にＣＭが流れて、面白ければ、すぐに広がりみんなが知っているような状況になるので、広報の仕方についても検討されてはどうかと思う。

○委員長　「学区の医療福祉を考える会議」はあたかも高齢者のための会議と捉えがちだが、決してそうではなく、地域で住んでいる方の生涯を通じての話として進めていくべきだと思う。また、現在、第２層の生活支援コーディネーターについては、市社会福祉協議会へ委託されていると思うが、他の自治体の状況を伺うと、協議体が活性化するか、しないかは、生活支援コーディネーターの力量にかかっているところが大きいと聞く。生活支援コーディネーターが地域の方とどれだけ上手く関係を築けるによって大きく左右されるということである。

更に進んでいる協議体では、生活支援コーディネーターだけに任すのではなく、行政や地域の医療や介護の関係者などが定期的に集まり、事務局会議を開いてて協議体の中身について議論していると聞いている。

今後、事務局には、他の先進自治体の好事例などを調べていただき、この場でも紹介していただけるとありがたい。

（３）特別養護老人ホームの整備について

○事務局　【資料３に基づき説明】

【質疑等なし】

（４）平成３１年度の予算概要等について

○事務局　【資料４－１および４－２に基づき説明】

○委員　資料４－２、長寿の郷ロクハ荘となごみの郷について、「今後の充実すべき事業展開」に「５．自らの健康づくりや介護予防が続けられる」とあるが、各施設に健康器具等を新たに設置する予算について計上されているのか。

○事務局　ルームランナーや血圧計などの健康器具については、既に各施設に設置している。また、資料４－１の７ページ、「健幸都市づくり推進費」における主な内容に「健幸づくり推進拠点の整備」とあるが、この中に長寿の郷ロクハ荘となごみの郷にかかる予算が一部含まれており、具体的には、体組成計などの備品購入費を計上している。

○委員長　今後の要望になるが、第５次草津市総合計画の進捗状況にあわせて、当委員会が所管している草津あんしんいきいきプランがどのように関連し、進んでいっているのかもあわせて説明してもらいたい。これにより、当委員会での議論の方向性等が具体化されると考える。

○委員　先ほどから「フレイル」というワードが何度か出たが、高齢になると摂るタンパク量が減り、運動量も減るということで、筋肉がだんだんと痩せ、運動が出来なくなって

しまうこと、すなわちロコモティブシンドロームになることを「フレイル」と言う。

資料４－２に「フレイル」の注釈があり、しっかりと高タンパクなものを摂り、リハビリ等を行うと、要介護になるスピードを遅くさせるというのは確かだが、もっと大事なことは、いったん「フレイル」の状態になっても、そこで頑張れば戻れるということであるので、今後、注釈にはこのことを追記してほしい。

○副委員長　町内会や老人クラブに対して、長寿の郷ロクハ荘やなごみの郷の利用について、もっと周知をお願いしたい。地域では、これら施設についてはあまり知られていない。せっかく良い施設があるのだから、利用しなければもったいない。

（５）その他

○事務局　草津地域包括支援センターが、平成３１年４月１日から草津三丁目９番１４号に移転するので報告させていただく。また、当委員会は、来年度３回程度の開催を予定しているので、引き続きよろしくお願いしたい。

３．閉会

以上